

第344回

日本泌尿器科学会新潟地方会

《プログラム・抄録》

日時：平成19年12月15日(土)午後3時
会場：新潟グランドホテル 5階 『常磐の間』
新潟市中央区上大川前通3ノ町 025-228-6111

次回 第345回新潟地方会予告

日時：平成20年3月8日(土)午後3時

会場：未定

演題申込期限：平成20年2月21日(水)

※ すべてPCのみの発表とさせていただきます。

※ 口演時間は、7分。討論2分

951-8510 新潟市中央区旭町通1の757

新潟大学医学部泌尿器科学教室内

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL：025 (227) 2289/FAX：025 (227) 0784

会長 高橋 公太

15:00～16:03

座長 新井 啓

1. 透析歴 27 年で献腎移植後自己尿管壊死にて尿路再建を行った一例

新潟大学医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野
田崎正行、中川由紀、谷川俊貴、齋藤和英、高橋公太

症例は 52 歳男性。血液透析歴 27 年にて献腎移植施行。高度の萎縮膀胱にて移植尿管を右自己尿管に吻合した。自己尿管がやや狭く、ガイドワイヤーは膀胱内に容易に通過するものの、5Fr ステントが入りにくかったためステント留置せずに Water-tight に吻合した。術後利尿回復とともにドレーン廃液が増加、膀胱からの排尿が全く出なくなった。28 病日尿管膀胱再吻合術施行。吻合部はインタクトだったが自己尿管の遠位が穿孔壊死に陥っていた。長期透析、高度萎縮膀胱に対する腎移植時の尿路再建法について考察を加えたい。

2. 直腸側に突出した前立腺膿瘍に対して TRUS モニタ下 TUR-P による切開排膿を行った一例

新潟県厚生連刈羽郡総合病院 泌尿器科 武田啓介、羽入修吾

症例は 65 歳男性。2007 年 6 月末より会陰部痛が出現し 7 月 13 日当科初診。直腸診にて前立腺膿瘍を疑い CT・MRI 施行し、4x5x3cm 大の膿瘍を認めた。8 月 8 日 TRUS モニタ下 TUR-P にて切開・排膿を施行。症状軽快、膿瘍腔は著明に減少し外来通院中である。

3. ケイ酸結石を成分とする腎珊瑚状結石の 1 例

新潟労災病院 泌尿器科 信下智広、小池 宏、
同 薬剤師 木南志朗

72 歳女。発熱、腹痛を主訴に近医を受診。腎盂腎炎、左珊瑚状結石を指摘された。当院へ紹介となり、ESWL を 35 回施行し排石を認めた。結石分析にて、ケイ酸結石であった。ケイ酸結石は、本邦では今までに 44 例しか報告がなく、ケイ酸マグネシウム製剤（胃腸薬）の長期内服が関与していることが多く、文献的考察を加えて報告する。

4. 後腹膜脂肪肉腫の 2 例

長岡赤十字病院 小林和博、村山慎一郎、米山健志、森下英夫

症例 1：51 才、女性。便潜血の精査中、CT にて 19×13×7cm 大の後腹膜腫瘍を指摘。生検にて高分化型脂肪肉腫の診断を得、腫瘍摘出・左腎合併切除術を施行。経過観察中。症例 2：60 才、男性。主訴は腹部腫瘤。CT にて 15×14×11cm 大、腸腰筋・腰椎への浸潤を伴う後腹膜腫瘍（脂肪肉腫疑い）を指摘。MAID 療法 3 コース施行後（NC）、腫瘍摘出・左腎合併切除術を施行。腸腰筋への浸潤部は可及的に切除。病理組織学的に高分化型脂肪肉腫の診断。経過観察中。

5. 当院における前立腺全摘術の検討

新潟県立中央病院泌尿器科 片桐明善、宮島憲生、丸山 亮

当院での前立腺全摘術 128 件について検討した。ED 以外の合併症は単径ヘルニア 14 例、吻合

部狭窄 12 例、直腸損傷 9 例（膀胱直腸瘻 1 例）、尿瘻 3 例、大腿神経麻痺 1 例などで、術後尿禁制は 2 年で 92%であった。術後の T 分類増悪 は 34%で、術前内分泌療法（NH）群の T 分類低下 は 15%であった。断端陽性は 32%で、NH 群は有意に低率で、部位は dw が多かった。pw+例は PSA 高値で、91%で底部または TZ で生検陽性であった。dw+例の 32%は尖部生検陰性であった。

6. 前立腺肥大症に対して TUR-P 後の前立腺切除率と排尿機能の関係

済生会下関総合病院 泌尿器科
占部裕巳、毛利 淳、高井公雄、上領頼啓

現在、前立腺肥大症の手術療法としては TUR-P が治療法として gold standard となっている。過去 1 年間の間に当院で施行した TUR-P 後の症例で、追跡可能であった症例に関し、術前評価の前立腺容積より、摘出重量と channeling のみに、とどめたものとの間で術前・術後の排尿機能の改善（尿流率測定・残尿測定・IPSS・QOL score）について有効性に差があるかどうか報告したいと思う。

7. ドナー・アクション・プログラム（DAP）モデル病院としての 1 年間の活動と臓器提供の状況

厚生連刈羽郡総合病院 臓器提供委員会
羽入修吾、近 貴志、富川 勝、高橋寿子、
黒崎貴和子、渡辺悦郎、小林 勲、秋山政人

2006 年に臓器提供委員会が発足し DAP モデル病院として活動中。2006 年 10 月全職員に『病院意識調査（HAS）』を実施。『レシピエントのお話』、『ドナー家族のお話』、『脳死』の講演会を実施。死亡症例検討（MRR）287 例でオプション提示が不十分とわかった。入院患者の意思表示カード聴取では聴取率 25%、所持率 2%だった。臓器提供は今まで 4 腎 8 眼で、ドナー家族は感謝されていた。オプション提示について講演会を予定している。

新潟泌尿器科同窓会総会

16:05～16:35

[会場 5階 千秋の間]

[休憩 16:35～16:50]

お知らせ

日本泌尿器科学会専門医・指導医申請に必要な新潟地方会参加証は、地方会当日受付に用意してありますので、必要な先生は受付に申し出て下さい。

サテライトセミナー

日 時：平成19年12月15日（土）

16時50分～18時10分

会 場：新潟グランドホテル 5階『常磐の間』

16：50～17：10

製品紹介

「前立腺癌に関する最近の話題」

武田薬品工業㈱ リュープリン担当MR 吉田 章

17：10～18：10

座長 長岡赤十字病院泌尿器科

部長 森 下 英 夫 先生

「腎移植の倫理的問題点」 - 宇和島問題を考える -

講師 新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野

教授 高 橋 公 太 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

武 田 薬 品 工 業 株 式 会 社

サテライトセミナー終了後、3階「悠久の間」にて合同懇親会となります。